

52 上直路遺跡出土遺物



指 定 市有形文化財 昭和62年10月20日
所有者 佐 久 市

上直路遺跡は、北に濁川・南を久保田用水に挟まれた、細長く展開する岩村田の枇杷坂遺跡群の中央部、佐久長聖高校グラウンドの北側に隣接し、昭和60年（1985）に調査が行われ、弥生時代の住居址1軒などが検出された。

この住居址は、南北10m、東西7mの弥生時代後期としては佐久地方最大級の規模を有し、東壁中ほどのベッド状遺構に近接する南北推定1.6m、東西1.3mの長方形土壇内から、右腕に5点・左腕に10点の銅釧（腕輪の装身具）を装着した成人骨が出土した。

釧は鑄造品で径6cm、幅0.6～0.8cm、厚さ0.16cmで円形を呈している。

土壇内からは甕3点、高坏1点が発見され、また住居南壁際からは壺・甕・高坏・鉢・甑・手捏などの完形土器が、密集していた。これら銅釧をはじめとした遺物の出土状況は、埋葬者の特異性を示すとともに、全国的にみても弥生時代の希な埋葬例である。

銅釧 15点 Y1号住居址出土品 20点